令和2年度第5回ローカルファンドを考えるコアメンバー会議
議事録概要

日時：令和2年11月25日（水）19：00～20：40
場所：西条市役所新館4階404会議室

■出席者：別紙出席者一覧のとおり

■内容

１　本会議の方針・進め方の説明（確認）

◎事務局：前回、

・令和2年度は、議論する1年

・令和3年度は、仕組みを構築する1年

・令和4年度は、実施・試行する1年として、令和4年度から「何らかのカタチで動かしてみる」ことを目標とし、財団と言う形に捉われず、チャレンジを応援しあえる仕組みの具現化を目指す。応援により、今ある活動の継続や新たなチャレンジの誘発につながり、一人ひとりの想いを実現できる地域を目指すことで、参加メンバーに了承を得たところ。

新メンバーの紹介及び挨拶

２　意見交換

◎事務局：前回出た意見（別添資料）について、特に気になるところを各々の立場から意見や考えを頂戴し、深めたい。

◎メンバー：社会的信用の話については、事業計画がしっかりしているか、その事業が5年後、10年後と続くようなアイデアのものかにより、銀行はお手伝いしていく。

　銀行は、いろいろ提言しながらお手伝い可能なので、金融機関は社会的信用がないから何もしないということはない。

◎事務局：事業計画という話が出たが、事業計画を支援する時に気を付けていることは？

◎メンバー：最近感じるのはヒアリングの重要性。事業内容を聞き、資金の必要性に応じて計画の骨組みを肉付けしていくのだが、インターネットで調べるより、本人に会ってしっかりと話を聞けば、本人が魅力と思っていないことを申請書に追記できることもある。

◎事務局：前回の意見では、お金の困りごともあったが、市では、今年度からふるさと納税を活用した「ＮＰＯ等指定寄附」という制度を開始し、一定の要件を設けて市内で活動する団体の資金調達の一助としている。

前回の意見でも「ふるさと納税の活用による寄附意識の向上」とあったが、現状は、返礼品がなく団体の活動や団体自身に共感して寄附を募るというのは、なかなか難しい。

「寄附を集める人の不足」という悩みが出ているが、構成員が少なくそのような悩みがある団体もあると思うが、いかがか。

◎メンバー：事業内容を説明するが、新しいと出だしで引っ掛かる。最近ようやく内容を聞いてくれたり、協力してくれたりする人が出てきたが、まだまだ先は長い。

そういった中でやっと生協の助成金やSAIJO SOUPの優勝賞金が入ったりしてきた。それがないと全て持ち出しの状態。

スタートアップでの資金は大事だと感じているので、自分たちも勉強していきたい。

◎メンバー：寄附を集めることと一般の事業で売り上げを上げることはそんなに変わらない気がする。一般の売買なら売りたいものを買いたい人に提供するということで、寄附は困っていることをちゃんと説明して、寄附してもいいよという人をどうやって見つけるかという話だと思う。寄附だけが特別じゃなく、やっている本質は変わらない。

前回の中で、人を育てるのが苦手なのかなと感じた部分があり、社会的事業のスタートアップをする時に想いが強すぎて、スキルが足りていないと感じることが多い。

◎事務局：前回出た意見をキーワードで集約すると「人・お金・情報発信」だと思うが、情報発信の大切さは認識しているが、拡散に繋がらないことも多いと思う。メンバーの皆さん自身が取り組む事業を拡散させるために、どういうことをしているか教えていただきたい。

◎メンバー：僕が意識しているのは、事業そのものはインターネットを活用しているが、「地域」というものにこだわって、そこで何か1つカタチを作りたいなという思いがあり、西条市の人たちと一緒に活動している。

もちろんネットでも、自分の活動内容やイベントの周知をFacebookなどでするが、その後は地味ながら、賛同してもらうためにリアルに人と会って話をすることが大切だと思っている。コロナ禍で難しい状況ではあるが。

◎事務局：情報発信を個人でやるとなかなか限界があり、深く広く、自分のやっていることを伝えたり、お金の協力を依頼できたりするものがあればいい。

◎メンバー：マーケティング理論の中で「キャズム」という言葉があり、この谷を越えたら一気に広がるというポイントがある。そこをどうやって超えるか、そこを超えるのがすごくしんどい。そこに行くまでのプロセスをどうやって組み立てるかということが大事。

◎メンバー：そのポイントまでの取組をサポートしてくれる機関があるとすごく助かるか？その機関のはっきりとしたイメージはないとしても、使いたいか。

→うなずくメンバー多数。

◎メンバー：これが困っていること。今の段階でそういうサポートがあったらいいなという希望はある。その段階で助けてくれたり、助言したり、ここにこういう人がいるから利用したらとかという情報があればいい。それがさっき出た「人・お金・情報」というところに結びつくのかなと思う。そのようなサポート団体は、部分部分では存在する。サイクスに相談に乗ってもらってすごく助かっているし、市民活動支援センターにも行った。これらをワンストップで、総合的に何かあったらいい。

◎メンバー：今、部分部分で人だったり、お金だったりという接点はある。その接点をうまく使えるかどうかとなると活動を行う人の力量になってしまっているから、そこをサポートするための仕組みを作らないといけない。

　また、困りごとをどこかに相談した時に、うまく繋げられるかどうかは、相談したところの力量に依るから、適切に行く場合とそうじゃない場合がある。

◎メンバー：支援側のリソースとかの把握も必要。

　また支援しすぎるのもあまりよくない。支援が終わった時に自分の足でちゃんと立ってないと進まない。申請者自身がどこまでやれるのか。申請者 1 人につき支援者が 1 人ついて、週 3～4 日働くという手厚いサービスができればいいと思うが。

　よくある産業支援のサービスで言うと、チラシとかをサクッと作ってくれる人がいるとかというのが一番わかりやすい。

◎メンバー：私のところにはデザイン関係の人が 1 人いるので、その人が作ることはできる。

　補助金申請のお手伝いをするにしても、事業者によっては全く何もないところから作ってという依頼があったり、ある程度骨組みを作ってアドバイスを求める人もいたりする。

　アドバイザーが深く入りすぎると、申請書も一から最後まで作っていると次も作ってということになり、結局、ずっと支援してもらい親離れできない感じになる。本当なら一人で歩いて行けているはずなのに、基本的な報告書の作成もわからないから来てほしいという事業者もあるので、そのバランスは大事だなというのはある。

◎事務局：何もかも任せきりの人を支援する側として本当に応援したいかどうか。先ほどの話にあったとおり、入りすぎるとその人が継続的に何かすることができなくなると思うし、そのチャンスをつぶしてしまうことにもなりかねない。

◎メンバー：必要とされるものの役割や担ってほしいものを自分たちが考えていくということがすごく大事で、「伴走型だけどちゃんと自立を目指していく」ということを最初の目的にすると、必要とされる仕組みが出てくるのかなという気がする。

◎メンバー：自分たちがやりたいことが自立したものになるのか、自立したものとして最初の段階で作ってもらうというのも一つ必要。
　相談した結果、自分たちが独り歩きできる状態なのかということも総合的に含めて判断してもらえる方が良い。

◎事務局：先日、SIB の中間報告会で一番感じたのは、何をするにも信用が一番大事だということ。というのも、SIB は、市というバックがある。何か始めようとしても、新規団体は何の団体か分からず、信用を与える機関というのが必要になる。それをこのまちの中で作る。SIB は、何の事業でも採択しているわけではなく、審査会を経て事業を採択し、市がお墨付きを与えている。NPO など社会的課題を解決しようとする方は、共感はされると思うが、今までも話してきた中で事業の継続にはいろんな知恵を借りないといけないと思う。
　それが、市が最初に提案したコミュニティ財団が最適なのかと思い打ち出したが、それだけではない。まずはプラットフォームを作らないといけないと思う。

◎事務局：プラットフォームとして必要なものは何となくは見えるが、プラットフォームにいたらいい人はどんな人か。そのようなプラットフォームがあって、情報等のワンストップ対応ができたらいいということだったと思うが、それには、何でもできるスーパーマンがいないと無理なのではないか。

◎メンバー：一人一人がプロだけど、調整役に近い人が必要で、プロフェッショナルすぎて、やる側が追い付かないのは本末転倒。
　プラットフォームが、助成金、補助金、融資などでこういうのが使えるということを把握しておき、そこに相談に行く。行ったところに情報が全てあるわけだから、どういうものをチョイスできるかというのをヒアリングしていくという導線が必要。

◎メンバー：先ほどの話を補足すると、今、中間支援をやっているメンバーは、中間支援同士の情報交換が全くできていない。お互い何ができて、何が得意かというのは把握してなくて、だから本当に適切なサポートができているかわからないまま終わっている。
　そこで、話があったように最初来る窓口みたいなところで、各中間支援組織がどういう支援ができてみたいな交通整理ができるような人を用意した方が良い。

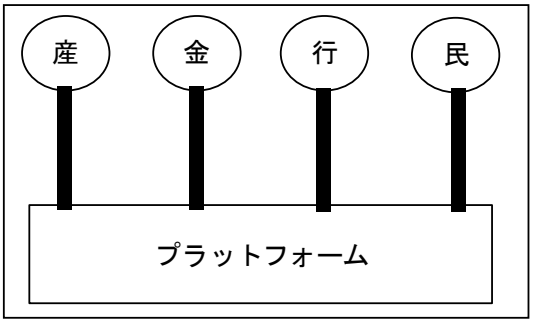
◎事務局：財団ができた場合、中間支援の最たるものになるので、中間支援同士の情報共有・連携がキーになるのかなと思っており、ここは近いうちに何らかのつなぎをしたい。

◎事務局：それだけではなくて、他にも市の中でやっていることがあるが、そのようなものに全然繋がりがないところはあるのかなと思う。

◎メンバー：例えば西条市で障がい者の雇用サービスを使いたいといった時に、私ならすぐ

に社会福祉課に行くが、ひょっとしたら別のところに別の補助金がある可能性もある。だから情報共有するための窓口、要は情報の集約、ワンストップでできるということに特化していかないとバラバラにあるのでは探しようがない。データベースとして存在し、うまくつながるように連続性のあるものにしなければならない。

◎事務局：私の今の話を聞いたイメージは、



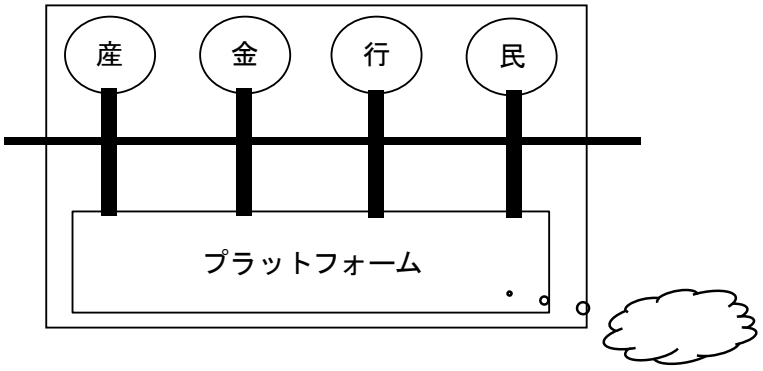
（図示したものの補足説明）

産業、金融、行政、市民活動というそれぞれの専門があり、それを繋ぎ合わせる共同体（プラットフォーム）を作ろうということでいいか。それぞれのプロが物理的な場に所属するのではなくて、「機会」を作ることがプラットフォームになるのか。意見があれば、追記をお願いしたい。

◎事務局：組織を作るのもありだし、よくあるのはそれぞれのプロが横に串刺しで〇〇協議会いうものもあるのかなと。本職のプロたちをつなぐ人的な連携があれば、あえて組織化しなくてもやがてコーディネーター的な役割も生まれるのではないかと感じた。

◎メンバー：

（前に出て追記）



初期段階で欲しい機能を盛り込んだらいい。そのうえで考えるという風にしていくと必要なものが明らかになるような気がする。

最初の考えもありだし、串刺しにする考えもありだと思う。どちらが正しいのではなくどちらが有効であるのか。そして、自分たちが何を選択していくのか。

最初のものをプラットフォームとするならば、プラットフォームをさらに支えたり、別

のものを持つところと結びつくみたいな。
　スーパーマンが必要なんじゃないかという話があったが、それも一つのキーワードかもしれない。スーパーマンがいないからスーパーマンに代わるものを自分たちがどう考えるのかというところで、今年の「議論する」ということが大事な意味をなしている。
　また、いろいろある団体の中でどこまでの合意を得るか、ということを自分たちが決めていくことが大事。
　個人個人の腹落ちは、僕からしたらある程度腹落ちしたらいいのではないかと思っている。どこまでの腹落ちで全体の合意を得たと言うのかというあたりを自分たちで決めていくことで決着をつけていかないと話をこれ以上延ばすことはできない。
　ワンストップや伴走型は今の時代の流行りで、それはいいのだけれど、本当にそれでいいのか。将来的な自立を目指した一時的な伴走支援を目標とするとか。それを具体的にどういう役割を持たせるかというところで変わっていくし、いろいろ話し合ったうえで最終的にコミュニティ財団でいいじゃないかという振り出しに戻ることもあり得る。

◎事務局：企業支援も市民活動支援センターも、やっていることは地域課題の解決につながるが、そこが分断されているように思える。それをくっつけていかないといけない。
　あとは、プラットフォームとなるところが、最終的にはビジネスとして成り立たなかったらいけない。行政がずっとやっていくことにはならないので。

◎メンバー：そこが一番難しく、躊躇していたところかもしれない。一時的な伴走支援をする組織を作りたいけど、ずっと行政が支援しないといけないという一種のパラドックス。

◎メンバー：それをビジネス的にやれるかどうかっていうと、なかなか実績や前例があるわけではない。だからそれをうまく払拭するための方法をどうするか。
　でも僕らがやろうとしていることは、今までの他の事例の紹介もあったので、ある程度不安は払拭できる。じゃあそれを仕組みとしてどう形作るか、西条市としてどう肉付けをするかというのは必要。足りないものがプロできるのであればプロですればいいし、そうでないのであれば、ゼネラル的なサポートも必要。
　ただ、社会的な部分はビジネスとして成り立たない場合もあるだろうからそのあたりの線引きをどうするかというところ。

◎メンバー：金融としてのサポートでは現在、事業計画の作成とか融資のような事業サポートについては手数料をもらう仕組みづくりをしている。
　サポートする側も何かしらの利益が必要なので、ただ単純に無償で全部やりましょうとかサポートしますよというものでもないので、そこも踏まえて考えていかないといけない。

◎事務局：今日の意見交換は以上としたい。引き続き、参加をお願いしたい。　　「了」